

JAえちご上越のご案内

私たちの経営理念

JAえちご上越は協同のこころのもと
農業を発展させ豊かな地域社会を実現します。

こころ耕し、いのち育む。



JAえちご上越

合言葉 (スローガン)

こころ耕し、いのち育む。

こころとは、協同の心、助けあいの精神です。
組合員・地域の人々が豊かな暮らしを送るには皆で協力し助け合っていくことが必要であり、人と人との結びつきがとても大切です。

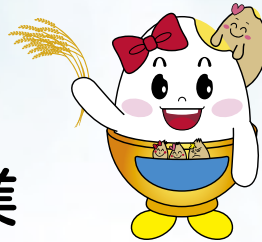
私たちは、自主、自立を尊重しながら組合員・地域の人々との結び付きを強く持ち、皆が笑顔でいられる豊かな地域社会の実現のため、協同の精神を育てまいります。

農業は、食を通じて私たちのいのちを育む大切な産業です。また、農業の多面的機能により景観や水利が守られ、私たちの故郷は維持されています。

私たちは、これからも農業と真摯に向き合い、組合員・地域の人々とともに農業の普遍的な価値を共有し次代につなげる活動に取り組んでまいります。

10年後の目指す姿 (長期ビジョン)

みんなが喜ぶ実りある農業
みんなと一緒に元気な地域をつくる協同組合
みんなの期待に応え続ける力強い経営基盤



JAえちご上越
マスコットキャラクター
「えこもりん」

第19回通常総代会ダイジェスト

JAの事業や成果、今後の運営方針などを協議する「第19回通常総代会」を5月27日に開催。令和2年度の事業計画など9つの議案を提出し、全て可決承認されました。

第19回 通常総代会提出議案 (会議の目的事項)

- 第1号議案
令和元年度事業報告および剰余金処分の承認ならびにリスク管理積立金規程、施設整備積立金規程、農畜産物販売対策積立金規程の変更について
- 第2号議案
令和2年度事業計画の設定について
- 第3号議案
経営管理委員、理事および監事の報酬決定について
- 第4号議案
令和2年度の賦課金、賦課方法、徴収時期および徴収方法の決定について
- 第5号議案
役員の選任について
- 第6号議案
役員に対する退職慰労金の支給について
- 第7号議案
定款および定款附属書総代選挙規程の変更について
- 第8号議案
定款変更に伴う監事監査規程の変更ならびに農地利用集積円滑化事業規程の廃止について
- 第9号議案
信用事業規程の変更について

総代会とは

組合員の民主的な運営を原則とする協同組合で、組合員が参加して、事業計画など組合の方針を決定する最高位の会議。定期的に開く通常総代会と、必要な時に開く臨時総代会があります。会議には各地区から組合員の代表として選出された総代が出席します。

出席総代数

総代数		994人
出席 総代数	本人出席	33人
	委任状出席	1人
	書面出席	879人
	出席者計	913人

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総代の皆さまに書面での出席をお願いしました。

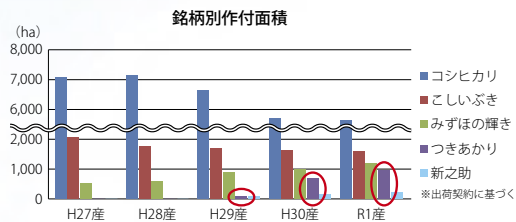
JAえちご上越では、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」の3つの目標を掲げ、各事業に取り組んでいます。ここでは令和元年度の主な取り組みとその成果を報告します。

合言葉は 「みんなで創る農業・地域・組織」

農業者の所得増大・農業生産の拡大を目指して!

① 早生品種「つきあかり」の作付面積 順調に拡大

業務用米の需要の高まりを受け、当JAでは早生多収品種「つきあかり」の試験栽培を平成29年より始めました。翌平成30年からは本格作付けに取り組み、面積拡大を推進。安定数量の確保に努めています。



② 複数年契約栽培で所得確保へ

◆ 複数年契約栽培

185,385俵 (前年対比244%)

消費者や取引先への安定した販売が農家所得の確保につながると考え、米の主要銘柄について複数年契約を推進しています。販売強化と安定販売を目指し、令和元年度は新たに「コシヒカリ」を対象品目に含め、取り組みを拡大しました。

③ えだまめ販売額1億円達成に向けて

えだまめの販売額1億円達成を掲げ、面積拡大と品質の高位平準化に取り組んでいます。これまでに、収穫からパッケージまでの作業を機械一貫体系化して、生産者の労力削減と作付面積の拡大を推進。令和元年度の作付面積は55畝となりました。

また、令和元年度は吉川区と三和区に1次選別や洗浄などを行う簡易選別所(サテライト)を新設。ほ場に近い場所に設置して、収穫後すぐに選別・冷蔵することで品質の向上を図りました。

えだまめのパッケージ作業風景。▶



④ スマート農業で米の生産コスト削減、収量・品質の安定化を図る

上越市や新潟県、JAや土地改良区、生産者などで構成する「上越市スマート農業プロジェクト委員会」は、令和元年度からの2年間、板倉区にある高野生産組合のほ場でスマート農業の実証を行っています。

令和元年度はGPSを利用して自動操舵で直進する田植え機(写真左)や自動給水栓、完全自動操縦のドローン(小型無人飛行機)による農薬散布(写真右)などの実演会を実施。多くの生産者に先端技術を紹介しました。



⑤ 異常気象に負けない米づくりに向けて

◆ 令和2年産米用の対象となる 土づくり資材への助成 1袋あたり 300円

近年の異常気象に負けない高品質・安定収量の確保に向け、「土づくり」を重点的に行えるよう、資材購入に対し助成を行っています。(対象期間は令和元年9月1日~2年6月末まで。)2年2月末までの購入分に対し、組合員ら919人に約489万円を助成しました。

⑥支店別農業振興計画の実践

◆主な実践事項

スマート農業の普及、地域オリジナル米の販売、鳥獣被害防止活動、中山間地域農業を考える講演会の開催

地域の現状を踏まえ、支店単位で農業者や地域住民と一体となって「支店別農業振興計画」を策定。地域特性を生かした農業戦略の実践に努めました。

有田支店でのドローン実演会。▶



地域活性化を目指して！

①「上越あるるん村」から食・農の情報を発信

◆令和元年度は

約80万人のお客さまが来店！

平成30年4月のオープンから合計143万人を突破！

上越の食と農の情報発信拠点に、今年度も多くのお客さまからご来店いただきました。商品の提供だけでなく、調理・収穫体験や、上越教育大学大学院と連携した食育講座なども開催。また、子ども食堂へ野菜を提供するなど、地域の食農教育に協力しました。

今後も食を支える農業の大切さを伝え、生産者と消費者を結ぶ架け橋としての役割を果たしていきます。



◀ (左) = 上越教育大学大学院の野口孝則教授による食育講座。(中央) = 出荷会員による対面販売や試食を実施。(右) = 生産者とともに、子ども食堂へ地場産野菜を提供。

②皆さまの気持ちを見童福祉に役立てる



◀ 8月に児童養護施設を訪ね、施設長へ募金を手渡した青木克明会長。

7月に開催した「映画上映会」の会場で、来場者の皆さまに募金協力と呼びかけ、各地の災害支援や子どもたちへの支援、地域づくりなどに貢献しました。

令和元年度の上映会来場者は約2,000人。お預かりした総額325,460円の募金は、地元の児童福祉に役立てていただくため、市内の児童養護施設に寄付させていただきました。

③地域色を生かした支店協同活動を展開

支店を中心に、組合員や地域の皆さまの要望を取り入れ、地域の特色を生かした活動に取り組んでいます。また、支店協同活動委員会が中心となって、次世代に食・農の大切さを伝える「えこもりん'Sクラブ」が今年度からスタート。令和3年までに全24支店で開催し、小学生やその保護者に向けて食の情報提供や農業体験、調理実習などの機会を提供していきます。



【安塚支店】地元介護施設の清掃



【中郷支店】「えこもりん'Sクラブ」親子で調理体験



【和田支店】上越妙高駅で地場産野菜即売会



【八千浦南川支店】地域や小学校と連携した田植え体験



【清里支店】農協まつりでの歌謡ショー



【名立支店】地域や小学校と連携したサトイモ栽培



【大島支店】中学生対象の田んぼ体験



【関山支店】グラウンドゴルフ大会

◎ここでは支店協同活動の一部をご紹介します。

決算の状況

※ 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しない場合があります。

貸借対照表

(単位：百万円)

資 産		負債及び純資産	
科 目	令和2年2月末	科 目	令和2年2月末
1. 信用事業資産	295,750	1. 信用事業負債	305,849
2. 共済事業資産	1	2. 共済事業負債	1,374
3. 経済事業資産	6,282	3. 経済事業負債	838
4. 雑資産	2,342	4. 設備借入金	94
5. 固定資産	12,579	5. 雑負債	793
6. 外部出資	12,695	6. 諸引当金	2,684
7. 繰延税金資産	705		
		負債合計	311,634
資産合計	330,355	1. 組合員資本	18,524
		出資金	7,702
		利益剰余金	10,876
		処分未済持分	△54
		2. 評価・換算差額等	196
		純資産合計	18,720
		負債及び純資産合計	330,355

剰余金処分

(単位：百万円)

科 目	金 額
1. 当期末処分剰余金	614
2. 特別積立金取崩	1,500
3. 剰余金処分額	1,952
(1) 利益準備金	60
(2) 任意積立金	1,833
(3) 出資配当金	58
4. 次期繰越剰余金	161

(注) 出資配当率は年0.77%の割合です。

損益計算書

(単位：百万円)

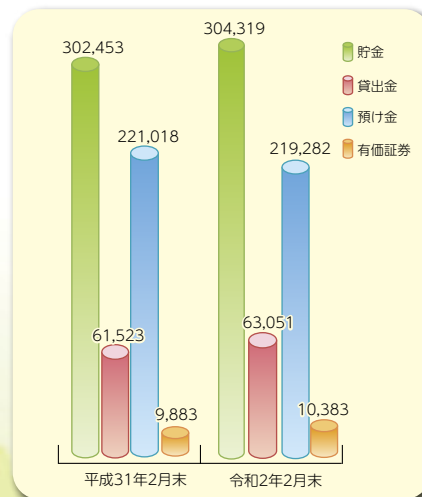
科 目	平成31年3月1日 ～令和2年2月29日
1. 事業総利益	7,066
(1) 信用事業総利益	2,244
(2) 共済事業総利益	1,725
(3) 購買事業総利益	1,524
(4) 販売事業総利益	393
(5) 保管事業総利益	164
(6) 加工事業総利益	70
(7) 利用事業総利益	929
(8) 高齢者福祉事業総利益	85
(9) その他事業総利益	49
(10) 指導事業収支差額	△121
2. 事業管理費	6,909
事業利益	156
3. 事業外収益	282
4. 事業外費用	21
経常利益	417
5. 特別利益	42
6. 特別損失	106
税引前当期利益	353
法人税等合計	60
当期剰余金	293
当期首繰越剰余金	147
地域農業振興積立金取崩額	173
当期末処分剰余金	614

信用事業主要勘定の推移

- ・ 貯金残高は、各種キャンペーンやJA独自の優遇商品の取扱い実施等により、3,043億1千9百万円（前年対比100.6%）となりました。
- ・ 貸出金残高は、住宅ローンなどの生活関連ローンの新規実行額の増加および金融機関貸付金の増加などにより貸出金残高全体では15億2千8百万円増加の630億5千1百万円（前年対比102.5%）となりました。
- ・ 有価証券残高は、安全・安定運用を中心としながら受益証券の運用を行い、103億8千3百万円（前年対比105.1%）となりました。

(単位：百万円)

科 目	平成31年2月末	令和2年2月末
貯 金	302,453	304,319
貸 出 金	61,523	63,051
預 金	221,018	219,282
有価証券	9,883	10,383

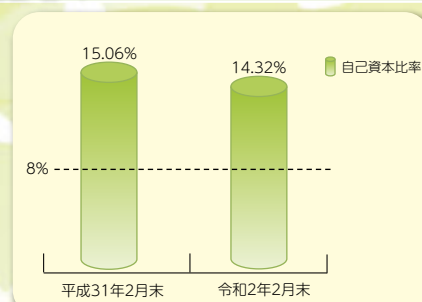


経営健全性指標（自己資本比率の推移）

- ・ 当JAは、地域の負託に応える金融機関であり続けるため、財務基盤の強化を進めております。自己資本比率は国内基準(4%)および国際統一基準(8%)を大きく上回っており、健全で安心いただける財務状況となっております。

(単位：百万円)

項 目	平成31年2月末	令和2年2月末
自己資本の額	18,498	18,477
リスク・アセット等の額の合計額	122,760	128,959
自己資本比率	15.06%	14.32%



これまでも、これからも、 組合員・地域の皆さまのお役にたてるよう JAえちご上越は「総合事業」を展開していきます

JAえちご上越自己改革取組宣言

- 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。
- 協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんと話し合いを深めます。
- 「総合事業だからこそ」の強みを生かし、組合員・地域にとってなくてはならない組織であり続けます。



金融共済事業を含めた総合事業を展開し、健全な経営を確保することで、
地域の農業と食を守る活動を展開しています。